

科目名	生徒指導論特講	担当者	シバヤマ ヒデキ 柴山 英樹	期間	通年	単位数	4
-----	---------	-----	-------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>本科目では、子どもの生きづらさや若者の働きづらさという現状を踏まえながら、学校教育における生徒指導（生活指導）や進路指導（キャリア教育）のあり方について探究していく。</p> <p>前期においては、現代の子どもと社会と直面している課題をどう捉えるのか、それを踏まえた上で、どのような生活指導を行っていくのかを理解することを目的としている。社会のなかで生きていくためにどのようなものを形成すべきか、生活指導の歴史的な変遷と現代的な課題を踏まえながら学んでいく。</p> <p>後期においては、生き方と働き方を関連させたキャリア教育のあり方を考えることを目的としている。まず、その前提となる学校から社会への移行過程が変容し、若者がおかれている状況を理解する。その上で、現状のキャリア教育の課題を検討しながら、今後のキャリア教育のあり方を探究していく。</p>		
到達目標	<p>本科目では、次の三点を学修の目標としている。生活指導やキャリア教育について、その歴史的・社会的背景を踏まえながら、論じることができる。また、課題に関する参考図書や文献資料を収集しながら、批判的かつ客観的に分析ができる。さらに、自ら問いを立てながら考察し、自分の考えを深めることができる。</p>		
学修方法	<p>まず、基本教材を熟読し、課題を把握することが大切である。次に、関連する図書や文献を読み、課題に関する理解を深めてほしい。また、基本教材1で論じられている生活指導の立場からだけでなく、生徒指導の立場も踏まえ、両者の特徴や違いについて客観的に検証してほしい。基本教材2は、参考図書等を合わせて読みながら、移行プロセスの現状と課題を把握してほしい。</p>		
スケジュール	<p>基本教材1のレポート課題は、9月課題提出締切日までに提出すること。</p> <p>基本教材2のレポート課題は、1月課題提出締切日までに提出すること。</p> <p>なお、課題提出前に草稿を提出し、担当者のコメントに基づき、修正しながら最終稿を作成する。</p> <p>基本教材1の課題1は6月中、課題2は8月中に草稿を提出すること。</p> <p>基本教材2の課題1は11月中、課題2は12月中に草稿を提出すること。</p>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	80%	テキストの理解度、着眼点、論理展開、適切な引用など。 形式面・内容面で不備がないこと。
	平常評価	20%	レポートの添削やアドバイスへの対応など。
履修者への要望	<p>課題について理解を深めて、適切に論述すること。そのためにも、積極的に参考図書や関連する事項について文献調査を行い、基本教材の立場や特徴を踏まえつつ、考察を深めること。レポートは、章立てをして、正確に引用しながら、最後に参考文献も明記すること。枚数は最低でも4枚以上。</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名： 山本敏郎・藤井啓之・高橋英児・福田敦志 教材名： 『新しい時代の生活指導』（有斐閣，2014年） ISBN:978-4-641-22034-8 1,800円＋税
	本教材は、子どもの生活現実から出発し、子どもの自主性を重んじ、子どもの社会的な自立を支援する営みとされる生活指導について論じたものである。また、子どもを理解するとはどういうことであるのか、子どもたちをいじめや暴力行為へと駆り立てる生活現実の問題についても踏み込み、生活指導のあり方を模索している。
参考図書	日本生徒指導学会『現代生徒指導論』（2015年，学事出版）ISBN:978-4761921293 2,800円＋税 文部科学省『生徒指導提要』（2011年） 文部科学省『中学校学習指導要領』（2015年），文部科学省『高等学校学習指導要領』（2009年）
履修上のポイント	本書を理解するには、生活指導の理念と歴史を理解しつつ、生徒指導の現状と課題を把握する必要がある。参考図書『現代生徒指導論』は、日本生徒指導学会が生徒指導の基礎理論や実践についてまとめたものであり、そこから現代における課題を把握することができる。また、今日の生徒指導を把握するには、『生徒指導提要』の理解が不可欠である。学校における生徒指導体制づくりやいじめ等の個別課題への対応などが示されており、『学習指導要領』と併せて理解を深めておく必要がある。
レポート課題 1	第Ⅰ部を読み、生活指導の原理や歴史を整理しつつ、今日の生活指導の課題について述べなさい。 留意点： 本書で用いられている「生活」や「指導」などの鍵概念の解釈や位置づけについて、他の見解を参照しながら検討すること。
レポート課題 2	第Ⅱ部を読み、子どもたちの生活現実をどのように捉えるかを整理しつつ、本書における生活指導実践の事例を取り上げ、指導のあり方に関する自分の意見を述べなさい。 留意点： 本書における「子ども理解」「生きづらさ」「いじめ」「暴力」「特別なニーズ」に関する捉え方の特徴を理解すること。

基本教材 2	
教材の概要	著者名： 児美川孝一郎 教材名： 『権利としてのキャリア教育』（明石書店，2007年）ISBN:978-4-75-032559-0 1,800円＋税
	まず、子どもと若者の「学校から仕事への移行」「大人への移行」過程の困難な状況を踏まえ、なぜキャリア教育が求められているのかを論じられている。その上で、今日におけるキャリア教育を検討しながら、子どもと若者に保障されるべき権利としてのキャリア教育を展望したものである。
参考図書	乾彰夫『若者が働きはじめるとき—仕事，仲間，そして社会』（日本図書センター，2012年） ISBN：978-4-284-30448-1 1,500円＋税 本田由紀『教育の職業的意義—若者，学校，職業をつなぐ』（筑摩書房，2009年） ISBN：978-4-480-06523-0 740円＋税 藤田晃之『キャリア教育基礎論』（実業之日本社，2014年）ISBN:978-4408416694 2,000円＋税 文部科学省『中学校学習指導要領』（2015年），文部科学省『高等学校学習指導要領』（2009年）
履修上のポイント	本書を理解するには、学校から仕事への移行過程の変容と若者を取り巻く現状を把握しておく必要がある。参考図書『若者が働きはじめるとき—仕事，仲間，そして社会』は、若者の働きづらい現実を論じたものであり、関連する文献紹介も参考になる。また、参考図書『教育の職業的意義—若者，学校，職業をつなぐ』では、キャリア教育の問題点を指摘しつつ、「教育の職業的意義」を高めるための提案がなされている。その一方で、これらとは異なる見解を示し、キャリア教育を推進する立場から論じたものとして、参考図書『キャリア教育基礎論』がある。なお、『学習指導要領』も参照し、進路指導のみならず、生き方や勤労観、職業観の育成にかかわる内容の充実が図られていることについても理解を深めてほしい。
レポート課題 1	第一章と第二章を読み、学校から仕事へ移行過程の現状と課題について考察した上で、なぜキャリア教育が求められているのかを論述し、それに対する自分の意見を述べなさい。 留意点： 基本教材のみならず、参考図書等の文献を参照し、移行過程の変容を歴史的に検討しつつ、若者がどのような困難に直面しているのかを考察すること。
レポート課題 2	第三章から第五章までを読み、著者が提案するキャリア教育について論述し、それに対する自分の意見を述べなさい。 留意点： 参考図書などを手がかりとしながら、今日のキャリア教育の特徴を踏まえて考察すること。